

令和7年度 第3回 幌延深地層研究の確認会議 説明資料

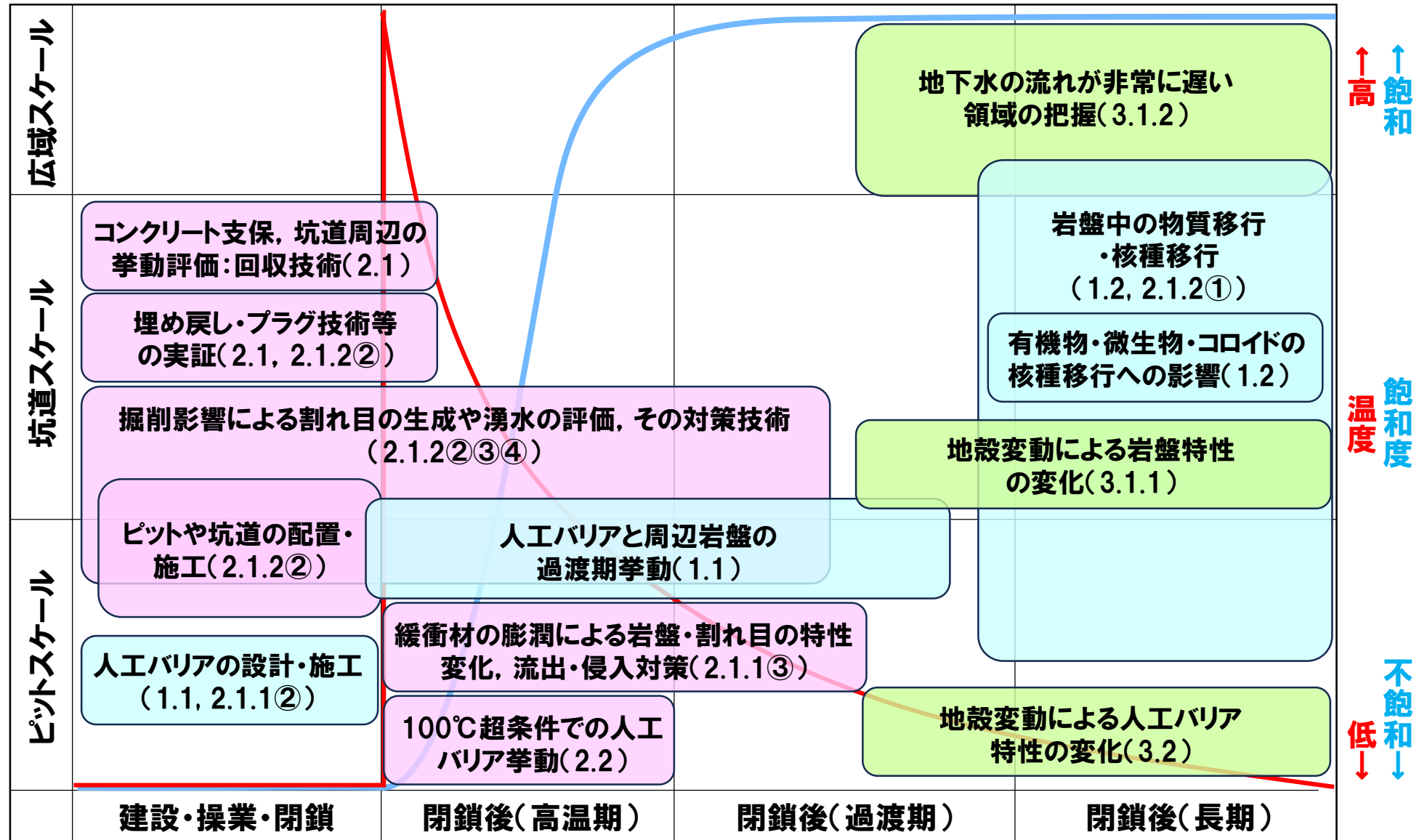
令和7年8月21日

**日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター**

確認会議での委員からのご指摘への対応 1. 地層処分システムの変遷と研究課題の関係

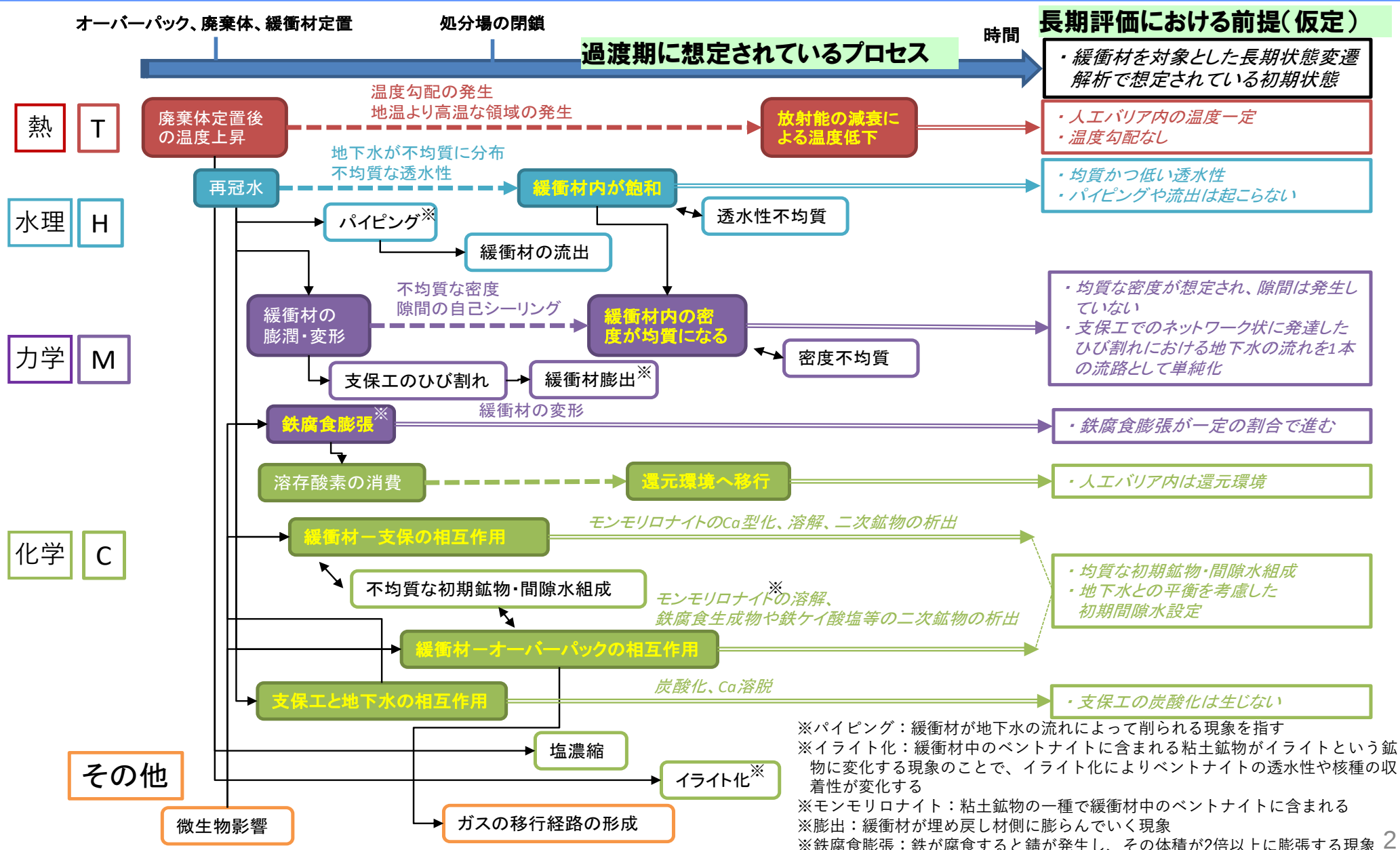
令和7年度第2回確認会議
 資料1 p.5の再掲

- 処分の時間と空間スケールの視点での研究課題の整理



補足資料：閉鎖後過渡期に想定される状態変化に係る整理図

(日本原子力研究開発機構・原子力環境整備促進・資金管理センター, 2023に加筆)



新規参入機関：



オーストラリア放射性廃棄物機関（ARWA：Australian Radioactive Waste Agency）

オーストラリア放射性廃棄物機関は、オーストラリアにおける放射性廃棄物処分の実施主体です。オーストラリアでは原子力発電を行っておらず、医療施設や産業施設から出される放射性廃棄物を対象としています。

経緯：

令和7年6月 5日：第6回管理委員会にてOECD/NEAよりARWAの参入について紹介

～6月11日：メールによる管理委員会によりARWAの参加を全会一致で承認

6月13日：ARWAが協定書に署名、正式に参加が決定

幌延国際共同プロジェクト（HIP） オーストラリア放射性廃棄物機関の参加

幌延国際共同プロジェクト（HIP）に新たに参加を表明したオーストラリア放射性廃棄物機関（ARWA）*について、6月11日までにメールによる管理委員会での全会一致の承認を受け、6月13日にARWAが協定書に署名し、正式に参加が決定しました。ARWAがどのタスクに参加するかは今後の調整により決定します。
これにより、HIPのフェーズ2の参加機関は原子力機構を含め、7か国10機関となりました。

ホームページでの掲載内容（https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/status/cyousa/cyousakenkyu_0706.html#0620）

参加タスク：タスクA、B、C（詳細な役割については調整中）

確認会議での関連事項：

新規参入の手続きについて、事務局であるOECD/NEAとの調整を踏まえて管理委員会の全会一致の承認を経たうえで協定書の署名欄に署名を完了した段階で参入することとなる。協定書に記載の条項は変更しない。

令和6年度第3回確認会議「資料3」：【p.2】にて説明

幌延国際共同プロジェクトのフェーズ2への新規参入機関について



フェーズ1 参加機関

参加機関(アルファベット順)	タスクA	タスクB	タスクC
連邦放射性廃棄物機関(BGE、ドイツ)	○	○	○
英国地質調査所(BGS、英国)	○	○	○
電力中央研究所(CRIEPI、日本)	○	—	○
オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO、オーストラリア)	○	○	○
工業技術研究院(ITRI、台湾)	○	—	—
日本原子力研究開発機構(JAEA、日本)	○	○	○
韓国原子力研究所(KAERI、韓国)	○	○	○
原子力発電環境整備機構(NUMO、日本)	○	○	○
原子力テクノロジー国営会社(RATEN、ルーマニア)	○	—	—
原子力環境整備促進・資金管理センター(RWMC、日本)	—	○	○
国営放射性廃棄物会社(SERAW、ブルガリア)	○	○	○

フェーズ1
で脱退

https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/status/hip/project_hip.html

フェーズ2 参加機関 (令和7年7月末現在)

参加機関名	タスクA	タスクB	タスクC
オーストラリア放射性廃棄物機関 (ARWA、オーストラリア)	○	○	○
連邦放射性廃棄物機関 (BGE、ドイツ)	○	○	○
英国地質調査所 (BGS、英国)	○	○	○
電力中央研究所 (CRIEPI、日本)	○	—	○
日本原子力研究開発機構 (JAEA、日本)	○	○	○
韓国原子力研究所 (KAERI、韓国)	○	○	○
原子力発電環境整備機構 (NUMO、日本)	○	○	○
原子力テクノロジー国営会社 (RATEN、ルーマニア)	○	—	—
原子力環境整備促進・資金管理センター (RWMC、日本)	—	○	○
国営放射性廃棄物会社 (SERAW、ブルガリア)	○	○	○

フェーズ2
で新規参加

https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/status/hip/project_hip2.html

500m調査坑道の施設整備について

令和7年度の計画（西立坑、500m調査坑道）

令和7年度

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
西立坑	掘削			
500m調査坑道	掘削			仕上

※本工程は今後の施工計画策定や工事進捗に応じて変更となる場合があります

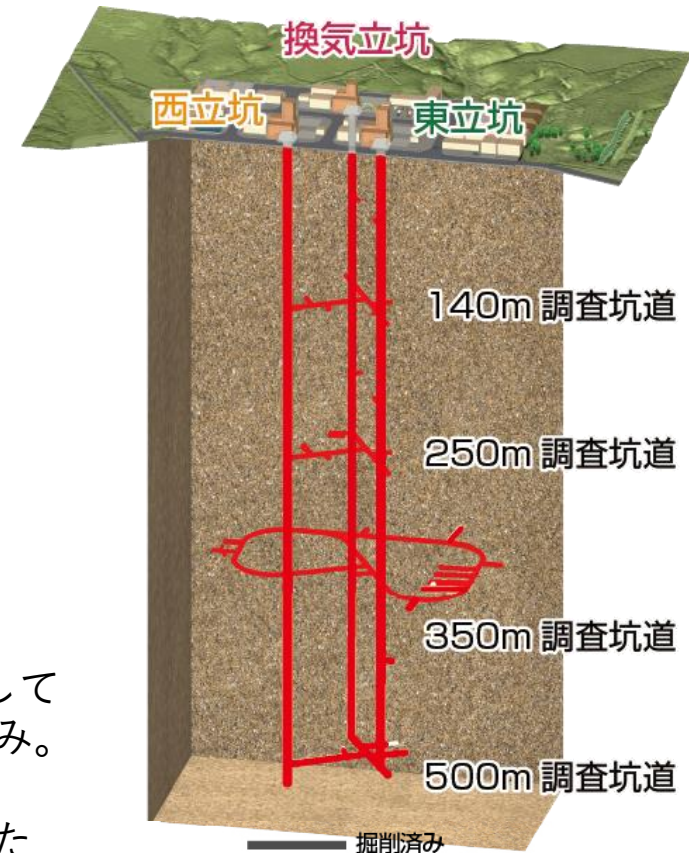
令和7年度の実績（西立坑、500m調査坑道）

- 西立坑：深度500mに到達（R7.5.24）
- 500m調査坑道：掘削延長198.7m/208.1m（R7.8.7現在）

今後の予定

500m調査坑道の掘削も順調に進捗しており、令和7年度末としていた施設整備の完了時期についても2～3か月程度早まる見込み。

施設整備の完了後、人工バリア性能確認試験の解体試験に向けた準備に着手する予定。



【地下施設イメージ図】

令和7年8月7日現在